

[様式②(汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

御提案書	
技術分野	①②⑤ (「技術提案募集の内容」の該当番号を記載願います)
御提案件名	水は水の力で、汚水は清浄水で阻止しよう。 (1滴の汚染水も漏らさない、巨大な貯水構想)
御提案者	NGO『海洋の空(UTSURO)』研究グループ 代表者 赤井一昭
1. 技術等の概要(特徴、仕様、性能、保有者など)	
<p style="text-align: center;">『海洋の空(UTSURO)』を利用した貯水池</p> <p>『水は高い所から低い所に流れる。(即ち水は圧力の高い方から低い方に流れる。) 圧力の高い水域と圧力低い水域の間に壁を設置すると、圧力の高い水域の水は、圧力の低い水域に流れようとする。 一方 圧力の低い水域の水は絶対に圧力の高い水域に流れることがない。 圧力の高い水域と 圧力の低い水域の間の壁の水密性を高め、圧力の高い水域の水を清浄水とし、圧力の低い水域の水を汚染水とすれば、圧力の低い水域の汚染水は、圧力の高い清浄水域に流入することがない。 このため、圧力の低い汚染水域をダブル堤で囲い締め切る「海洋の空(UTSURO)」を構成し、堤体内に清浄水を満たす事により、圧力の低い汚染水は、ダブル堤の圧力の高い清浄水を透過して外海域に一滴の汚染水も流出することが出来ない。』 これが『「海洋の空(UTSURO)」を利用した貯水池』である。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>図9-5 福島原発の廃炉に向け 浸出水の海洋流出の阻止構想図(素案)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>図9-6 「海洋の空(UTSURO)」を利用した貯水池の堤体</p> </div> </div>	

表9-1 「海洋の空 (UTSURO)」を利用した貯水池の容量

UTSURO の規模 H 貯留水深	1.5 km	1.5 km	1.5 km
	× 1.0 km	× 2.0 km	× 3.0 km
1 m	150万トン	300万トン	450万トン
2 m	300万トン	600万トン	900万トン
5 m	750万トン	1500万トン	2250万トン
10 m	1500万トン	3000万トン	4500万トン
20 m	3000万トン	6000万トン	9000万トン

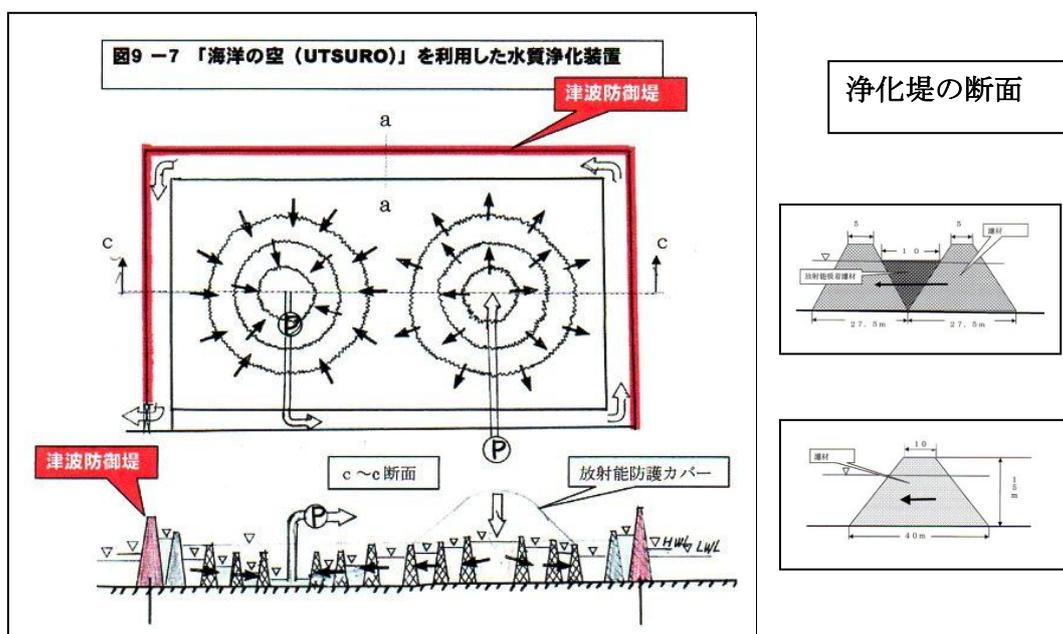
2) 注意事項

ダブル堤の清浄水が貯水池に流入を阻止する心得

- ①内堤の水密性を高める。
- ②内水と清浄水の水位差を小さく管理する。

万が一、清浄水が、流入したとしても『「海洋の空 (UTSURO)」を利用した貯水池』内に設置した浄化装置の吸い出し浄化装置の水量が増加することになる。

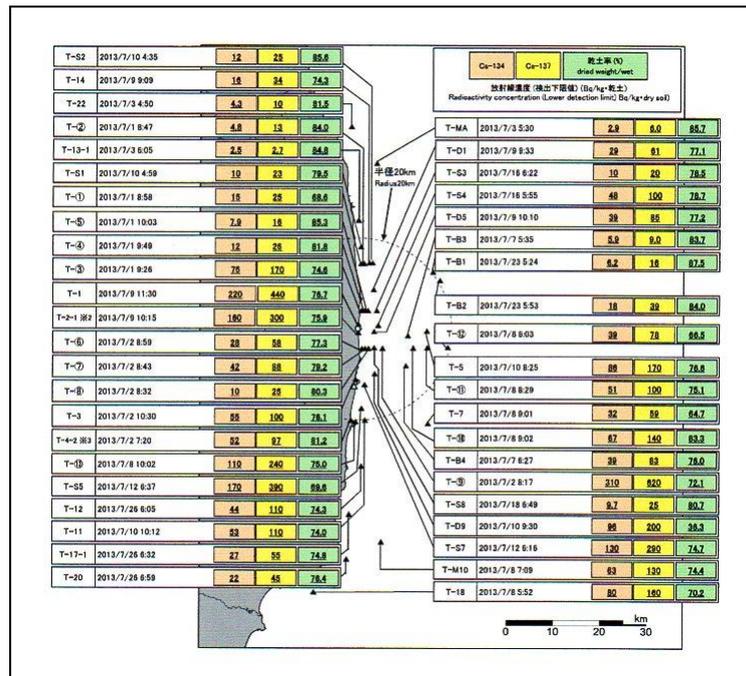
「海洋の空 (UTSURO)」を利用した貯水池』内に設置した浄化装置



福島原発前面の海域の底泥は高濃度の放射能汚染されており、今後漁業等の海域環境に大きな影響を及ぼすことが必至である。

今後、原発の廃炉に向け、不測の海洋汚染を防止するためにも、この海域を囲い締め切る《海洋のうつろ》を構成し、底泥を留保し、汚染水を貯留し、浄化する。

福島原発近傍海底泥の汚染土のモニタリングの結果



2. 備考（以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします）

- ・開発・実用化の状況（国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む）

資料については別に送付します。

関連技術のポスター5件を添付しています。

- ① 水は水で！汚水は清浄水で阻止しよう！
- ② 1滴の汚染水も漏らさない！巨大な貯水構想
- ③ 汚染水は自然の力で浄化しよう！
- ④ 放射能除染ガレキと震災ガレキ5億トンを、早期に、しかも安全に処理しよう！

⑤ 海底泥の汚染対策

⑥ 放射能の河川浄化

⑦ 福島に夢を！

- ・ 開発・実用化に向けた課題・留意点
- ・ その他（特許等を保有している場合の参照情報等）

（備考）技術提案募集の内容（6分野）

- ① 汚染水貯蔵（タンク等）
- ② 汚染水処理（トリチウム処理等）
- ③ 港湾内の海水の浄化（海水中の放射性物質の除去等）
- ④ 建屋内の汚染水管理（建屋内止水、地盤改良等）
- ⑤ 地下水流入抑制の敷地管理（遮水壁、フェーシング等）
- ⑥ 地下水等の挙動把握（地下水に係るデータ収集の手法、水質の分析技術等）